

令和3 年度第2 回ヨコハマe アンケート

横浜市民防災センターの利用状況及び防災対策に関するアンケート

実施期間 令和3年5月7日（金）から5月21日（金）

事業所管課 消防局 横浜市民防災センター

年代別・性別のメンバー数／構成比

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	不明	計
男性	13 (0.4%)	60 (1.7%)	194 (5.5%)	422 (12.0%)	434 (12.3%)	427 (12.1%)	255 (7.2%)	1 (0.0%)	1,806 (51.2%)
女性	9 (0.3%)	104 (2.9%)	482 (13.7%)	548 (15.5%)	384 (10.9%)	132 (3.7%)	41 (1.2%)	0 (0.0%)	1,700 (48.2%)
不明	1 (0.0%)	3 (0.1%)	3 (0.1%)	6 (0.2%)	4 (0.1%)	4 (0.1%)	1 (0.0%)	0 (0.0%)	22 (0.6%)
計	23 (0.7%)	167 (4.7%)	679 (19.2%)	976 (27.7%)	822 (23.3%)	563 (16.0%)	297 (8.4%)	1 (0.0%)	3,528 (100.0%)

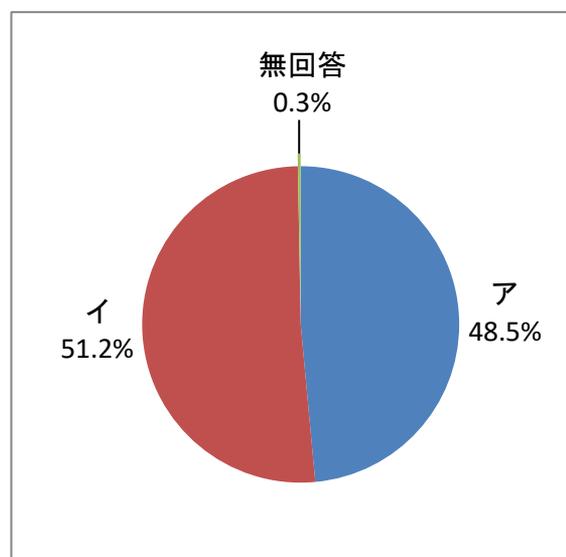
年代別・性別の回答者数／回答率

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	不明	計
男性	2 (15.4%)	17 (28.3%)	68 (35.1%)	229 (54.3%)	246 (56.7%)	286 (67.0%)	164 (64.3%)	1 (100.0%)	1,013 (56.1%)
女性	0 (0.0%)	22 (21.2%)	152 (31.5%)	237 (43.2%)	200 (52.1%)	77 (58.3%)	19 (46.3%)	0 (0.0%)	707 (41.6%)
不明	1 (100.0%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	5 (83.3%)	1 (25.0%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13 (59.1%)
計	3 (13.0%)	41 (24.6%)	222 (32.7%)	471 (48.3%)	447 (54.4%)	365 (64.8%)	183 (61.6%)	1 (100.0%)	1,733 (49.1%)

Q1 横浜市唯一の体験型防災学習施設である、横浜市民防災センターを知っていますか。
(単一選択)

n = 1,733

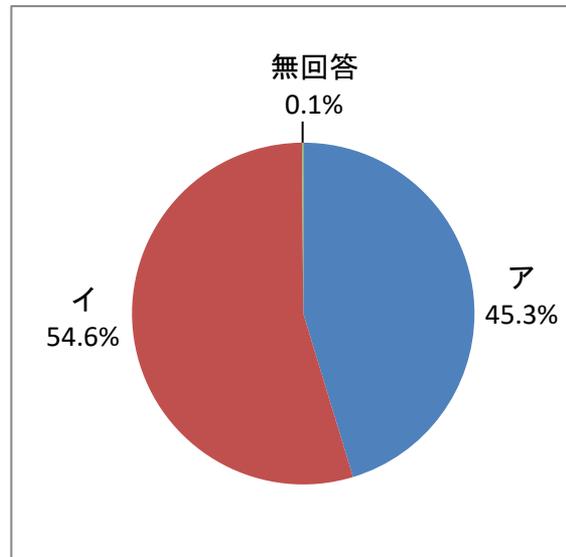
ア	知っている (⇒Q2へ)	48.5%	841
イ	知らない (⇒Q8へ)	51.2%	887
無回答		0.3%	5
		100.0%	1,733



Q2 Q1で「ア 知っている」と答えた方にお聞きします。
 横浜市民防災センターに来館したことはありますか。
 (単一選択)

n = 841

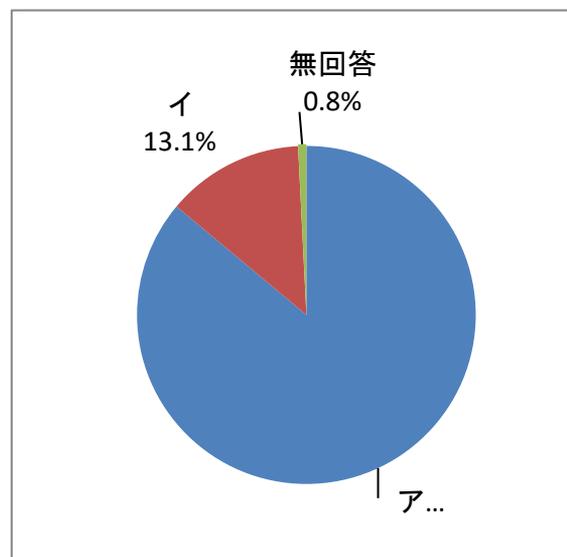
ア	行ったことがある (⇒Q3へ)	45.3%	381
イ	行ったことはない (⇒Q7へ)	54.6%	459
無回答		0.1%	1
		100.0%	841



Q3 Q2で「ア 行ったことがある」と答えた方にお聞きします。
 横浜市民防災センターにもう一度来館したいと思いますか。
 (単一選択)

n = 381

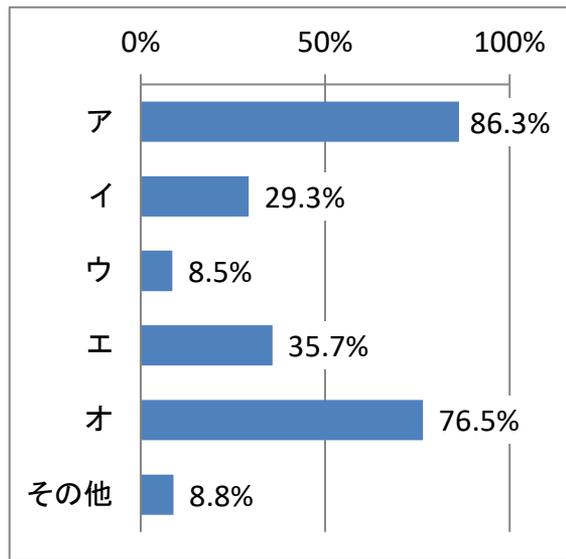
ア	はい (⇒Q4へ)	86.1%	328
イ	いいえ (⇒Q6へ)	13.1%	50
無回答		0.8%	3
		100.0%	381



Q4 Q3で「ア はい」と答えた方にお聞きします。
 横浜市民防災センターに来館した際によかった点について教えてください。
 (複数選択可)

n = 328

ア	防災について地震・火災・風水害などの体験ツアーで学習できた	86.3%	283
イ	インストラクターの案内が分かりやすかった	29.3%	96
ウ	障害がある方でも体験ツアーを利用することができる	8.5%	28
エ	土日祝日も利用することができる	35.7%	117
オ	無料で利用することができる	76.5%	251
その他		8.8%	29



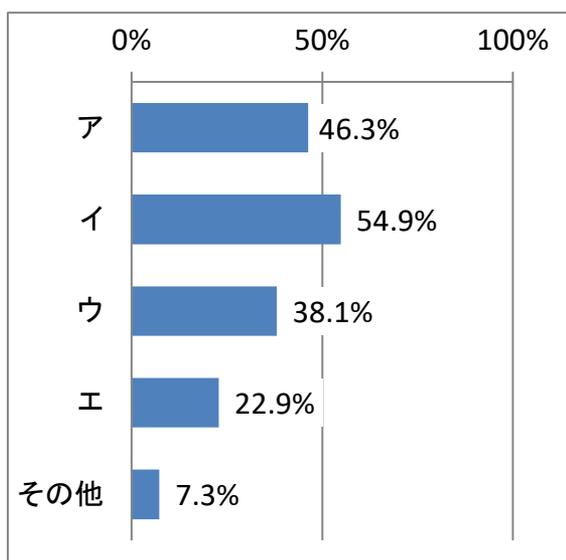
その他(抜粋)

子どもが防災教育を学べたこと
イベントが開催されていて息子と楽しく体験できたこと
救命講習

Q5 Q3で「ア はい」と答えた方にお聞きします。
 横浜市民防災センターにもう一度来館したいと思った理由について教えてください。
 (複数選択可)

n = 328

ア	防災について以前行った時にはなかった新しい体験・学習メニューができたから(もしくは「まだ体験・学習できていないメニューがあるから」)	46.3%	152
イ	同じ内容でも何度も体験・学習することが重要だから	54.9%	180
ウ	行ったことがない家族や知人を連れて行きたいから	38.1%	125
エ	自治会や町内会における防災・減災の取組の一環として活用したいから	22.9%	75
その他		7.3%	24



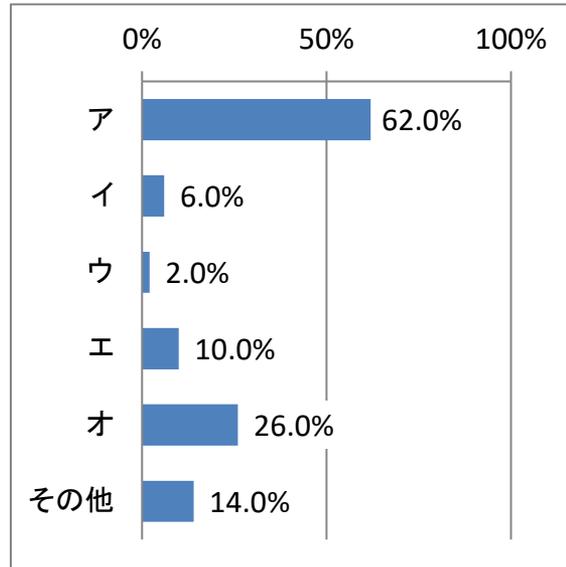
その他(抜粋)

防災についての意識を再確認したいから
子供と体験できるから
町内会の防災部長をやっておりできるだけ多くの防災部員、会員の方々に知って頂くことが肝要であると思ったから。
説明(体験)が不十分だったと感じているので、もう少し身につく体験をしたいため。

Q6 Q3で「イ いいえ」と答えた方にお聞きします。
 横浜市民防災センターにもう一度来館したいと思わない理由について教えてください。
 (複数選択可)

n = 50

ア	一度の来館で十分学習することができたから	62.0%	31
イ	学習したい内容がなかったから	6.0%	3
ウ	展示物や体験ツアーなどの内容が難しかったから	2.0%	1
エ	展示物や体験ツアーなどの内容が楽しくないから	10.0%	5
オ	駅から遠い場所にあるから	26.0%	13
その他		14.0%	7



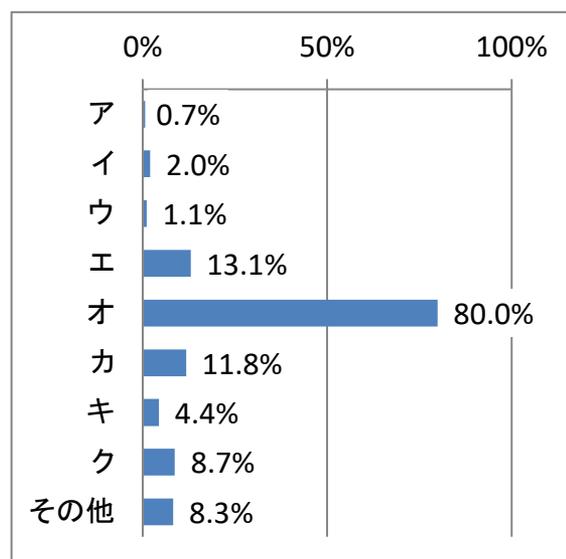
その他(抜粋)

家から遠いから
子どもが小さかったので、怖がってツアーに参加できなかったため、あまりできることがなかった。
次に行っても新しい情報は無さそうだから
障害者なので体験ツアーがやや怖い

Q7 Q2で「イ 行ったことはない」と答えた方にお聞きします。
 横浜市民防災センターに来館したことがない理由について教えてください。
 (複数選択可)

n = 459

ア	防災に興味がないから	0.7%	3
イ	楽しくなさそうだから	2.0%	9
ウ	難しそうだから	1.1%	5
エ	場所がわからないから	13.1%	60
オ	行く機会がなかったから	80.0%	367
カ	一緒に行く人がいないから	11.8%	54
キ	他の防災学習施設に行ったことがあるから	4.4%	20
ク	特に理由はない	8.7%	40
その他		8.3%	38



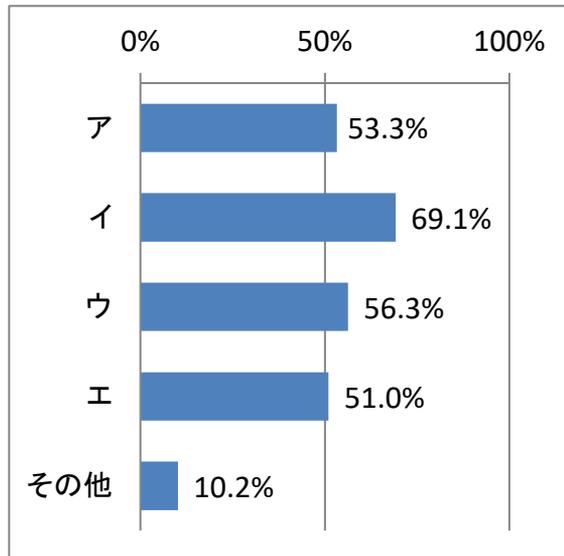
その他(抜粋)

予約が面倒
駐車場がないので、子どもを連れて行きにくいから。
施設が自分の行動範囲の近くであったり、観光地や商業施設に隣接した場所にあれば行きたいと思いますが、防災センターを目的として行くまでには興味が至らない。
以前より行きたいと思っていたが、コロナ禍になってしまい、行けなくなった。

Q8 全員にお聞きします。横浜市民防災センターでどのようなことができれば来館したい人が増えると思いますか。(複数選択可)

n = 1,733

ア	最新の防災対策が学べる学習メニュー	53.3%	923
イ	VR(仮想現実)を活用した立体的な映像による臨場感あふれる災害体験やAR(拡張現実)を活用した疑似的空間における災害体験	69.1%	1,198
ウ	自由に施設内を見学できる(※現在はインストラクターの案内がなければ施設内を見学できません)	56.3%	975
エ	非常食などの試食ができる	51.0%	884
その他		10.2%	176



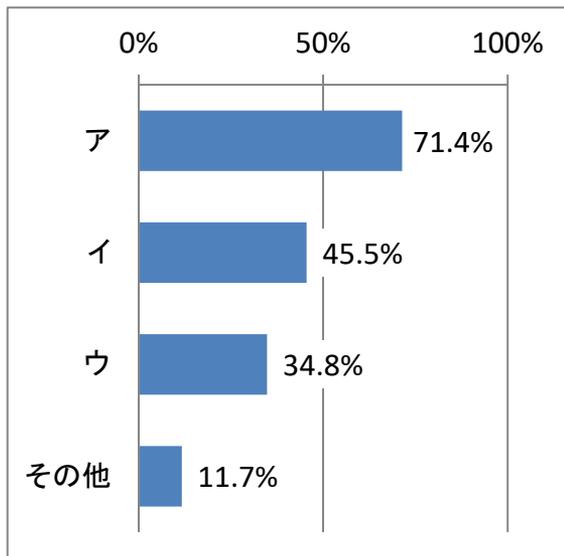
その他(抜粋)

防災センターの存在が周知されていないのもっとPRが必要
人気のあるアニメ、ゲーム、マンガなどとのコラボをやったら子供達も一緒に行ってくれると思う。
非常食や災害に対する準備品などが購入できる

Q9 横浜市民防災センターにどのような施設があれば来館したい人が増えると思いますか。(複数選択可)

n = 1,733

ア	防災用品の販売ブース	71.4%	1,237
イ	カフェ	45.5%	789
ウ	子供が遊べるスペース	34.8%	603
その他		11.7%	202



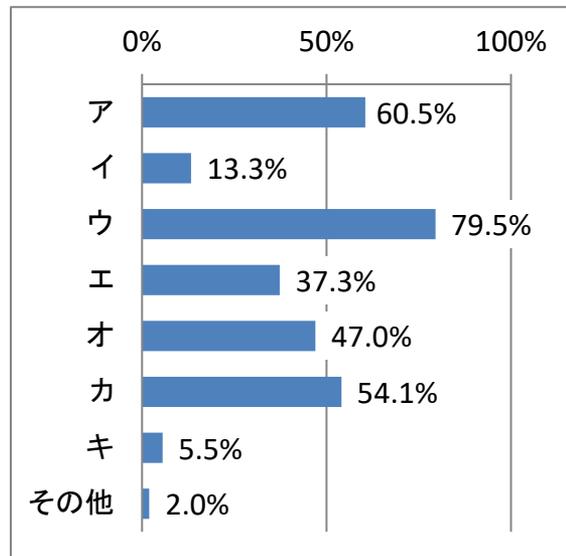
その他(抜粋)

避難所の仮想体験できる設備。例えば、段ボールのベッドや仕切り、車椅子の高齢者が過ごせるか、またペットと一緒に避難する場合のマナーや必需品、体験した方の映像など。
津波や台風、火災などの災害を疑似的に実際に体験できる設備。
防災に役立つ、書籍やビデオなどの販売や貸出コーナー。

Q10 ご自宅や職場などで実施している防災対策について、該当する項目を選択してください。
 ※「その他」を選択した方は(⇒Q12へ)
 (複数選択可)

n = 1,733

ア	家具の転倒防止	(⇒Q12へ)	60.5%	1,049
イ	感震ブレーカーの設置	(⇒Q12へ)	13.3%	231
ウ	食料・飲料・生活必需品などの備蓄	(⇒Q12へ)	79.5%	1,378
エ	非常時における安否確認などの連絡手段の確認	(⇒Q12へ)	37.3%	647
オ	避難場所や避難経路の確認	(⇒Q12へ)	47.0%	815
カ	非常用持ち出し品の準備	(⇒Q12へ)	54.1%	937
キ	何もしていない	(⇒Q11へ)	5.5%	96
その他			2.0%	34



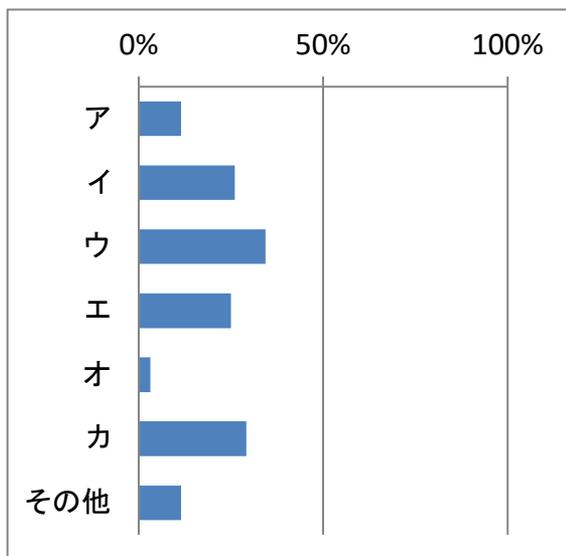
その他(抜粋)

非常用トイレ、ソーラー電器
発災時に居場所が分かるように家族で行き場所をカレンダーに登録するようにしています。
通勤通学路の安全チェック、耐震性能が高いのある住宅の選択、災害時に備えた体力作り

Q11 Q10で「キ 何もしていない」と答えた方にお聞きします。
 防災対策をしていない理由について教えてください。
 (複数選択可)

n = 96

ア	災害がいつ発生するかわからないから	11.5%	11
イ	お金がかかるから	26.0%	25
ウ	なにをすれば良いかわからないから	34.4%	33
エ	準備が面倒だから	25.0%	24
オ	必要ないと思うから	3.1%	3
カ	特に理由はない	29.2%	28
その他		11.5%	11



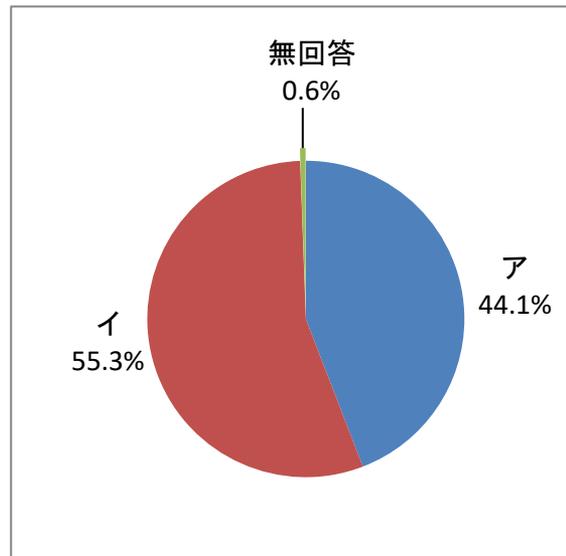
その他(抜粋)

以前は、非常食などを備蓄していたが、あまり美味しくなく期限切れ近くになっても日常の食卓で食べる気になれず、全て廃棄していたため、商品としても費用としても無駄になってしまうから。
やった方がよいと常に思ってるがやりそびれている。
やろうとは思っても防災用品を置いておく場所がない。

Q12 全員にお聞きします。
台風やゲリラ豪雨などの風水害の発生時と大地震の発生時に避難する場所が異なる場合があることを知っていますか。
(単一選択)

n = 1,733

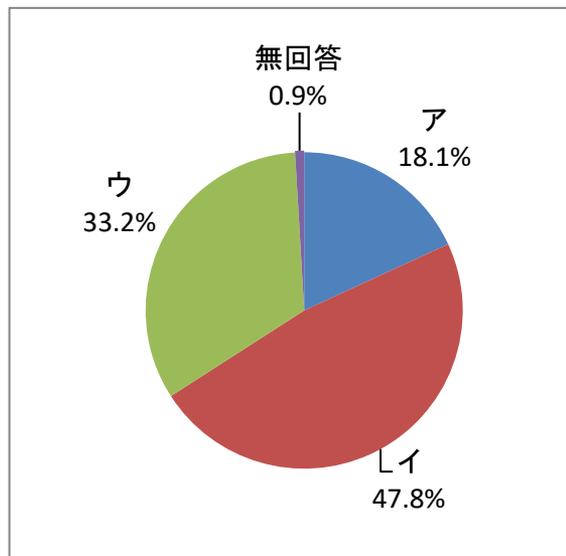
ア	知っている	44.1%	765
イ	知らない	55.3%	958
無回答		0.6%	10
		100.0%	1,733



Q13 風水害、大地震の発生時に、避難する場所をそれぞれあらかじめ決めてありますか。
(単一選択)

n = 1,733

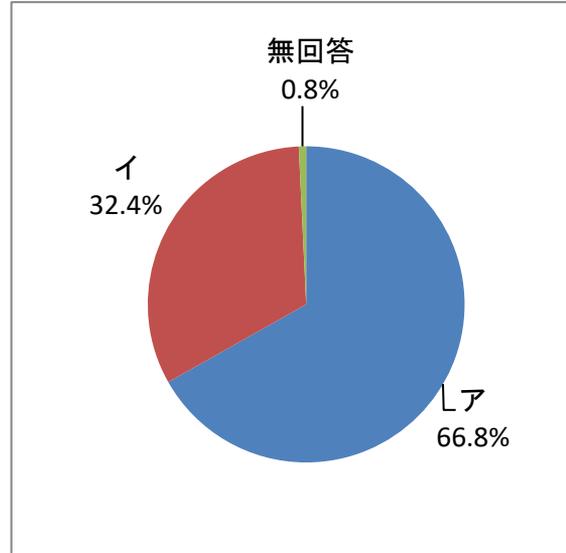
ア	風水害・大地震の発生時でそれぞれ決めている	18.1%	314
イ	避難する場所を決めているが風水害と大地震の違いは考慮していない	47.8%	828
ウ	避難する場所を決めていない	33.2%	575
無回答		0.9%	16
		100.0%	1,733



Q14 災害発生直後は、支援物資などが届くまで時間がかかることを想定し、最低3日分の食料や飲料を備蓄していることが必要だと言われています。ご自宅などにおいて最低3日分の備蓄をしていますか。
(単一選択)

n = 1,733

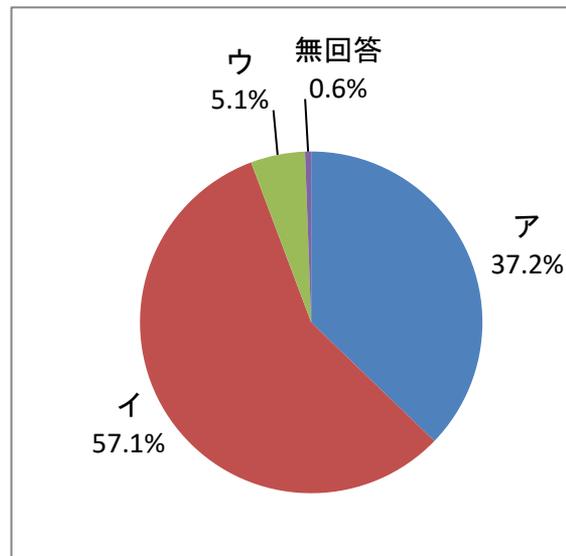
ア	している	66.8%	1,158
イ	していない	32.4%	562
無回答		0.8%	13
		100.0%	1,733



Q15 風水害時の避難について、情報の意味を直感的に理解し、避難行動がすぐにとれるよう、避難情報を5段階の「警戒レベル」を用いてお知らせしています。あなたは、避難情報の「警戒レベル」を知っていますか。
(単一選択)

n = 1,733

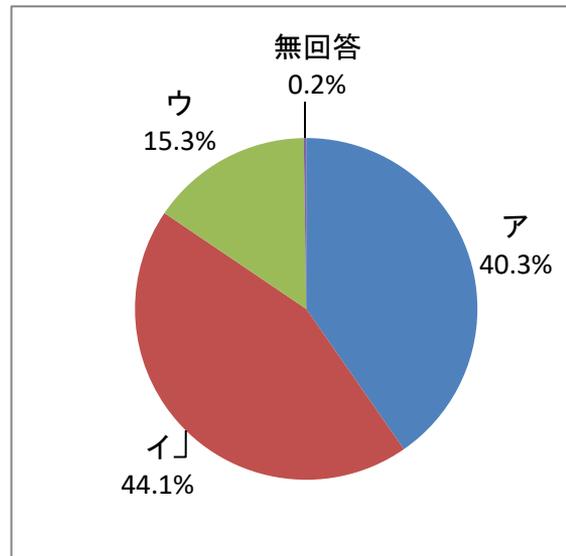
ア	警戒レベルごとの意味まで理解している	37.2%	645
イ	聞いたことはあるが、意味までは分からない	57.1%	989
ウ	知らない	5.1%	89
無回答		0.6%	10
		100.0%	1,733



Q16 各種ハザードマップで自宅や職場、学校など、ご自身やご家族の生活圏における風水害などの災害発生のリスクを確認したことはありますか。
(単一選択)

n = 1,733

ア	確認し避難する場所までの経路なども把握している	40.3%	699
イ	確認はしたが何をすれば良いかわからない	44.1%	765
ウ	確認したことはない	15.3%	265
無回答		0.2%	4
		100.0%	1,733



Q17 横浜市民防災センターや横浜市の防災・減災の施策について、ご意見があればご自由にご記入ください。
(自由意見)

(抜粋)

<p>防災センターは様々な体験ができ、優れた施設だと思いますが、知名度が低いような気がします。学校などに案内チラシを配布したり、校外学習などで利用してもらうなどすると知名度が上がると思います。</p>
<p>避難場所の案内掲示をもっと増やす。災害対策用品、保存食料品などを安価に販売する機会を設ける。</p>
<p>警報が出ても、どのタイミングで避難場所施設が開設されたのかがわからない。</p>
<p>もっと、分かりやすく、重要な防災情報を頻繁に横浜市LINEで載せてもらえると助かります。</p>
<p>暴風雨の体験設備</p>
<p>防災センターは予約しなければ行けないので、行くのを敬遠してしまう。</p>
<p>防災センターへの来館のみにこだわるのではなく、防災センターで学べることを広くインターネット等で見られるようにしてほしい。YouTube等で体験動画を流すのも良いかも。</p>
<p>ひとり暮らしかそうでないか、若いか高齢者か、家族構成によっても、心構えや準備品が異なってくると思います。自分に合った防災・減災、避難方法など考えてみる必要があると思っています。参考にするためにも、市民防災センターにはぜひ行ってみたいと思っています。</p>
<p>横浜は、急坂になっているところが多く、どのように避難するのが安全か地域の地形的な要因について事例を交えながら具体的に知りたい。子供や高齢者を伴い移動する場合の安全な避難方法について周知してほしい。</p>
<p>横浜市独自の防災・減災ハンドブックを作ってほしい。具体的な記載内容としては、各種災害ハザードマップや避難所に関すること、非常用持ち出し品目、備蓄品目の量と目安、具体的な自宅の減災対策、普段外出時に持っておくと良いものなどを小中学生と大人向けに作成する。</p>
<p>小中学校、地域ケアプラザなど人が集まる場所に市の職員が自ら出向いて、積極的に情報提供や講座などを実施すると良いと思います。防災は自治体だけではできないので、NPOや大学、民間企業などと協力して団体連携することで実現できると思います。</p>